

2024年度を迎えて

地震と飛行機事故で幕開けした 2024 年。どうしようもなく陰鬱な時間が流れるそんなときに島田分教室にも大谷選手から「野球しようぜ！」とグローブが届いた。社会の崩壊感覚の中で大谷選手は我々にとっての希望のアイコンだ。島田分教室の生徒は 4 人。キャッチボールのできる子はいないが、それでもグローブをして職員とともに笑いがはじける。

こののどかで平和な時間。つかの間の幻想に浸る時間を与えてくれた大谷選手には感謝しかない。あまりにも偶像化された大谷像がハイエナのようなメディアに翻弄・改悪されることも今後あるに違いない。偶像は偶像に過ぎない。ハイエナの扇動に一喜一憂すること

はやめよう。大谷選手のようになりたいという子どもが増えるのはよいことだが、「頑張ればなれるんだ」とロールモデルにして鍛えようとする指導者や親はやや情けないという気がする。

このグローブはいのちを削って切磋琢磨している大谷選手からのギフトだと思う。我々のお返しはそれぞれの持ち場でプロとして与えられた仕事をこなすこと。「療育」という古い言葉に新しいいのちを吹き込む作業はもう始まっている。

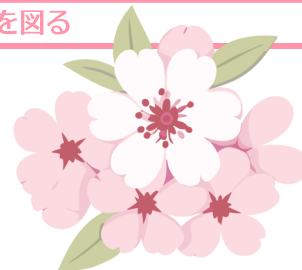


院長 久保田 雅也

2024年度の方針

療育を見つめ直し組織力の強化、経営の安定化を図る

- 1 増収計画をめざす
- 2 個々を尊重した接遇に心掛ける
- 3 各事業の組織体制の見直しを行う
- 4 導入したeラーニングも活用して、自己研鑽に努める
- 5 新病棟建築計画の施工準備を進める



2024年度

主な行事予定・就学状況

4月	新職員オリエンテーション デイケアセンター 入所式
5月	第63回創立記念式典 デイケアセンター 幼児部遠足
6月	第2病棟 大遠足 第3病棟 大遠足 (東棟) センター全体 防災訓練 島田療育センター集談会
7月	第7病棟 大遠足 (西棟)
8月	二十歳のお祝い
9月	わいわい祭り
10月	第3病棟 大遠足 第5病棟 大遠足 第6病棟 大遠足 第7病棟 大遠足 (東棟)

11月 第1病棟 大遠足
第5病棟 大遠足
還暦・古稀・喜寿のお祝い
合同防災訓練
島田療育センター集談会



12月 クリスマス会 (入所・通所)
1月 デイケアセンター 二十歳を祝う会
3月 デイケアセンター 卒園式

その他イベント予定

各種配信イベント・音楽コンサート、ぱらあーと (多摩市みんなの美術作品展)、各種講演会 (セブクロバー) …など

東京都立多摩桜の丘学園在籍数 (4月1日現在)

	本校	分教室	総数
小学部	0名	0名	3名
中学部	0名	1名	
高等部	1名	1名	

CAPP

2月21日(水)、厚生棟内にてCAPPが行われました。デイケアセンターの幼児部4名・青年部15名が参加され、4頭のボランティア犬やハンドラーの皆さんと賑やかな時間を過ごすことができました。前回の2019年12月19日以降、4年以上の歳月が流れていました。久しぶりの再開に、ハンドラーさんからは懐かしいとの声がありました。職員も雰囲気盛り上げようと、目をキラキラさせながら利用者の皆様との関わりを楽しんでいました。(編集委員 清水 信夫)



宝舞風瑠さ登

2月25日(日)に「宝舞風瑠さ登」の配信イベントを厚生棟内にて催しました。わいわい祭り等のイベントにも協力していただいた舞踏グループです。日本各地の伝統芸能を取り込みながら、創作ダンスを音楽と共に披露してくださいました。迫力のある演舞から花笠音頭で会場を盛り上げる踊りまで、見る人を楽しませていただきました。(編集委員 清水 信夫)



タンゴドラムコンサート

3月3日(日)、タンゴドラムのコンサートが行われました。タンゴドラムという楽器をご存知でしょうか。タンゴドラムは金属に、舌のような形状の切り込みがされていて、独特の反響音が特徴の打楽器です。今回はパーカッション奏者の勝見愛様のご協力で、珍しいタンゴドラムの曲を堪能できました。タンゴドラムの体

験コーナーも設けていただき、利用者様も職員も興味津々のひと時でした。(編集委員 清水 信夫)



DUO LIETO SPRING CONCERT

3月17日、田中希代子様・藤岡弘子様のお二人のピアノの連弾コンサートを催しました。クラシック音楽の洗練された演奏の中、二人の連弾によっていつもとは違う曲の雰囲気を創り出していました。音楽に合わせて歌声を響かせていた利用者様の姿が印象的な、素敵なコンサートでした。(編集委員 清水 信夫)



第21回

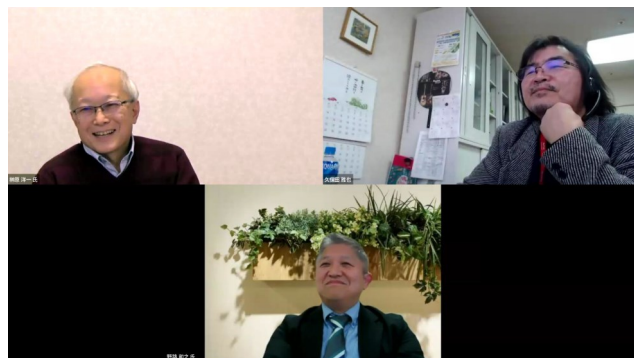
公開シンポジウムを開催しました

第21回島田療育センター公開シンポジウムを2月10日(土)にオンライン形式で開催した。テーマは「障害を持つ者の教育と就労—『私』の物語から考える—」。講師は以下のお二人をお願いした。

私は教育や就労の太古からの歴史の変遷、現在に至る過程(遺制としての徒弟制度)、身体性の減弱などを前座として話した。

お茶の水女子大学名誉教授榊原洋一先生には、「特別支援教育とインクルーシブ教育」というタイトルで日本における教育制度の歴史的な現状と課題を詳述していただいた。世界的な潮流としては多くの試行錯誤を繰り返しながら、特別支援教育が普通学校に統合されるというインクルーシブ教育が実践されつつある中で、日本ではそれらの分離した制度がインクルーシブ教育とみなされている。その是非についてはにはわかには答えは出せない。制度の根幹と現実的な学校環境(場所、建造物、教職員)が不十分なまま、まさに現実的な路線として分離が進んでいるようにも思う。医師と同じように教員の働き方改革も推進されるだろう。また、取り残されている親の働き方改革も必須の課題だろう。教育の不十分性を最も補っているのは親、特に母親である。医療的ケア児の家族を見ればわかる。

障害者就業・生活支援センターTALANTのセンター長兼わかさ福祉会の理事長野路和之さんは「障害の



ある方の学びと仕事を考える」というタイトルで障害者就業・生活支援センター事業、都内の就労支援体制、障害者雇用の現状(雇用者数は19年連続で過去最高を更新)、軽度知的障害のある方の障害者雇用の課題、雇用における過剰適応、障害者雇用における差別禁止と合理的配慮の提供義務化(2024年4月1日から)、雇用率ビジネスの問題点、週10時間の特定短時間雇用、障害の医学モデル・社会モデル、就労支援にはプロセスがあることを理解する(向いた働き方を探るには時間がかかる)、「あわてず、あせらず、あきらめず」などわかりやすく現状を解説していただいた。

就労に関しても様々な課題がある中で、教育の世界よりも労働環境、建物環境などインクルーシブな配慮から様々な制度や支援が検討されているように思えた。

視聴参加者123名からは貴重な感想をいただいた。今後のシンポジウムの参考にしたい。

(院長 久保田 雅也)

多摩市社会福祉協議会法人化50周年記念福祉大会にて

感謝状をいただきました

多摩市社会福祉協議会法人化50周年記念福祉大会において島田療育センターは「フードライブ継続実施団体」として感謝状を頂きました。

引き続き多摩社協で行っている「食料無料配布事業」に職員一同貢献していきたいと思えます。

(事務部部长 森久保 真由美)



新日本管財一般社団法人田代基金様へ

感謝状を贈呈しました

27年という長きに亘り、島田療育センターへ継続的にご寄付頂いている新日本管財一般社団法人田代基金様をこの度東京都社会福祉協議会の会長表彰へご推薦させていただき、表彰状を代理でお渡しさせていただきました。

社員の互助会費も寄付にお使いになっていらっしゃるの事。多くの方に御支えいただいていることを忘れずに私達職員も自助努力をしていきたいと思えます。

(事務部部长 森久保 真由美)



第18回

心理講演会を開催しました

今年度の心理講演会は、1月21日(日)から2月5日(月)にかけて、『特別支援教育の最新の動向を踏まえて今できること～教科学習のユニバーサルデザイン化と合理的配慮～』というテーマで、ライブ配信とオンデマンド配信を用いたオンライン開催で行いました。教室で学ぶすべての子どもが「わかる」「できる」授業づくりは簡単ではなく、多くの工夫が必要となります。特別な支援が必要な子を含む、様々な学びのスタイルを持つ子どもたちが楽しく学びあうために、大人にできることを探っていくことは重要な課題となります。そこで今回は、特別支援教育の研究者として、長年第一線で活躍の小貫悟先生を講師としてお迎えし、「合理的配慮」「教科学習のユニバーサルデザイン」という視点からお話いただきました。

限られた期間の中でのライブ配信およびオンデマンド配信でしたが、教育関係者をはじめとして、医療関係者や保護者など211名がご参加くださり、350回を超えるご視聴をいただきました。講義では合理的配慮の重要性や教室での導入例、法的な背景まで多岐にわたる内容を非常に丁寧にお話くださいました。特に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のために必要となる“お子さんを中心とした包み込むモデル”や“授業のユニバーサルデザイン化のための視点”について具体例を挙げながらご講義いただきました。教育関係者の方はもちろんのこと、臨床場面でお子さんに関わる支援者にとっても今後の支援の手がかりとなる貴重なお話でした。

終了後に参加者に実施したアンケートでは、「わかりやすく教えていただき、とても理解しやすかったし、意欲が生まれた」「具体的な合理的配慮の例も示していた

だけで支援者としての学びが多かった」といったご感想をいただきました。また、「2時間があっという間で、もっとお話を聞きたかった」といった声も多くいただきました。私個人としましても先生のご講演をもとに、ご参加いただいた皆様と共に協働してお子さんを包み込むことができる大人の一員でありたいと考えております。講師の先生、参加者の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

(臨床心理科 堀田 章悟)

2023年度 第2回

虐待防止研修を開催しました

全職員を対象に、研修視聴サイトによる令和5年度2回目の視聴研修を実施しました。以下の内容で、受講期間は2月19日(月)～3月31日(日)でした。

- ①「島田療育センターのMAPCAP委員会の取り組み」
(中村医務部長担当)
- ②「2023年度虐待防止チェックリスト結果報告」
(落合療育部長担当)

視聴後、テスト問題に解答し、受講終了となりました。

(編集委員 宮田 雅美)

2023年度

個人情報保護全体研修を開催しました

全職員対象で、学研eラーニングによるオンデマンド講義の視聴にて研修を行いました。

内容は、「守秘義務、個人情報保護の基礎知識」で2月1日(木)～3月17日(日)までを受講期間としました。講義視聴後は、確認テストとアンケートに回答し、終了となりました。

(編集委員 宮田 雅美)

お知らせコーナー

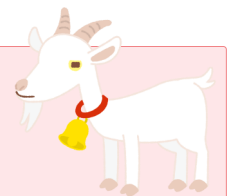


第63回創立記念式

2024年5月1日(水)に創立記念式が行われます。
当センターは今年で創立63年を迎えます。

ヤギがやってきました

今年も大人気のヤギさんたちがやってきました。夏に向けて伸びてくる草をもりもり食べてもらう予定です。



季節の彩り



春を感じる代表的なチューリップと桜の花々に加えて、新学期のイメージのランドセルを飾ってみました。装飾ボランティアさんの菅原様と高橋様の作品のコラボレーションです。

発行者

社会福祉法人
日本心身障害児協会

島田療育センター

〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL

042 (374) 2071 (代表)

URL

<https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/>

スマホの方は
こちらから

島田療育センター



フォロー
ほっけ



フェイスブック

